

平成 30 年度 第 1 回磐田市総合教育会議 会議録

日 時 : 平成 30 年 10 月 25 日 (木) 午後 3 時 30 分～午後 5 時 00 分

会 場 : 磐田市役所 西庁舎 3 階 特別会議室

出席者 : 市長、教育長、青島美子委員、秋元富敏委員、杉本憲司委員、鈴木好美委員
(出席者 6 名)

事務局 : 企画部長、教育部長、秘書政策課長、教育総務課長、秘書政策課政策・行革
推進グループ長、教育総務課総務グループ長、児童青少年政策室長

傍聴者 : 0 名

【会議次第】

1. 開 会

2. 市長あいさつ

3. 協 議 事 項

(1) 幼・小・中の連携について

(2) その他

4. 閉 会

[協議の主な内容]

(1) 幼・小・中の連携について

市長 本日のテーマは「幼・小・中の連携」です。委員の皆さまより忌憚のないご意見をいただきたい。

委員 幼稚園の民営化が進められていることについて、私立は公立と比べて交流センターや地域の方との触れ合いの機会が減少するのではないかと、先生の異動がなくて風通しが良くないのではないかと、閉鎖的で限られた空間になってしまわないかと、公立小学校との連携が上手くいかなくなるのではないかと、など民営化を心配する声を聞いた。「子育てなら磐田」と言いながら、なぜ切り離すようなことをするのかと言われて、説明ができなかった。民営化することについて、市民に対して納得のいく説明がなされていないのではないかと思う。市の方針が理解されていないのに、このまま進んでしまっても良いのかと疑問に感じている。

委員 これまでは、学府一体校における新たな学校づくりという観点で、様々な学校の視察や研修を経験させてもらい、磐田市の小中一貫教育では幼稚園や地域の交流センター等の活動を組み込んだカリキュラムが作れたら良いなという思いを持ってやってきた。しかし、振り返ってみると、幼稚園・保育園の公立と私立の状況、例えば教育実態や通園させている親のニーズなどを十分に理解していなかったと反省している。これから幼・小・中一体校のカリキュラムを作っていくにあたっては、そうした現状を理解したうえで、問題点や今後の課題を整理する必要がある。そのためにも、まずは私立も含めた幼稚園・保育園を視察させてもらい、実態について勉強していきたいと思う。

委員 昨年5月の定例教育委員会で、教育長から「すべての学びは幼稚園の砂場から得た」というロバート・フルガムの言葉を聞いて、それまで自分は、一貫教育では、どちらかというと成人教育の方に重きを置いていたが、乳幼児教育の持つ意味がとても重要だと感じるようになり、最近は一貫教育における幼・小・中という捉え方の中で、保まで含めた幼というものの大切さをいろいろな場で実感している。自己肯定感と自尊感情が培われ全ての基本となる1歳から5、6歳までの時期を、教育長は「信の期」と表現されたが、その「信の期」というのは、子どもたちが、自分の立っている足場を確固たるものとして体験して体得する、そういう時期だと思う。信頼の本質を体得するという意味では、この時期に豊かな体験を経験化しておくことがとても大切だと思う。

委員 小学校や幼稚園の視察で、子どもたちの様子を見たり、先生と話したりすると幼稚園と小学校の連携が大事だと改めて感じる。磐田市は、全ての小学校に公立の幼稚園があり、お互いに良い関係を築きやすい素晴らしい環境にあると思う。民営化により私立の幼稚園が増えると、今後、私たちが私立幼稚園に対して、磐田市の教育を強く要望していけるのかという点で不安を感じる。また、保育園やこども園は、幼稚園と比べてわがままな子が多い、シフト制で担任がいらないなど、教育するところまで持っていくのが難しいと聞

いたことがあり、幼児教育は外だけでなく、家庭でどう過ごすかが大切だと考えさせられた。今後、こども園化・民営化が進み、働くお母さんも増えるだろうが、せめて寝る前の数時間でも良いから子どものために時間を作ってほしいと思う。

市長

教育談義は言い出したらきりが無く、私にもここにいる職員にも正解は分からない。委員の皆さんの意見も間違っているとは思わない。古い考え方かもしれないが、私もせめて1～2歳までは親元に置いてほしいと思う。ところが、全国で幼稚園が軒並み定員割れし、保育園が足りないという実態がある。私が市長になった頃は、磐田市の待機児童数は浜松市、静岡市に次いで県内で3番目に多く、公立幼稚園に延長保育をお願いしたこともある。幼稚園をこども園化すると、先生が一度に集まれないとかシフト制になるといった問題があることは承知しているが、公立幼稚園がない藤枝市では、問題のある子どもたちばかりかと言うとそうではない。長野幼稚園エリアでは龍の子幼稚園がこども園化したとき、長野幼稚園の園児数が一気に減った。理由は検証しなければならないが、間違いなく龍の子幼稚園に流れている。委員が言うように民営化により、公立の良さがなくなる部分はあるかもしれない。しかし、幼稚園教育には、公立・私立関係なくカリキュラムがあり、龍の子幼稚園は地域との連携ができています。近年は、以前よりも公立幼稚園や小中とも連携が取れるようになっており、公立のお金で一緒に研修も行っている。私立も含めた幼・小・中の一貫的なカリキュラムの基本的な部分は、幼児教育と家庭の大切さだと思う。私立だろうが公立だろうが、幼稚園だろうが保育園だろうが、預けた子がみんな問題のある子になるわけではないが、家庭環境によって濃淡が出ているので、これを何とかしたいと思っている。現状として何が起きているのかを、親だけでなく、一度みんなで考えることが大事である。少人数では集団生活を経験出来ないという見解もあれば、少人数教育が大事だと考える人もいて、財政面だけで民営化するのと言われるがそれも違う。民営化の論議が始まった理由の1つは保育士不足である。今、全国で幼稚園教諭や保育士の奪い合いになっていて、需要に供給が追いつかない状況にあるが、社会福祉法人の幼稚園・保育園では、それらを戦力として保持している。こうした課題は、公立だけでは解決できないため、苦肉の策としてという部分もある。一方で、個別に不安を抱える人が世の中にはたくさんいるが、行政としてどこまで支えることが良いのかという思いもある。

教育長

幼稚園、保育園、小学校における関わりが大切だというのは皆さんの共通した意見だと思う。そうした関わりを作っていくことが磐田市全体の役割であり、これからは私立を置き去りにすることなく、私立まで含めた新たな関わりを作っていきたいと考えている。先ほど委員の話にも出たように、現状を勉強することも大切だと思う。例えば、長野幼稚園から龍の子幼稚園に園児が流れているといった状況についても、その要因を勉強して考えていく必要がある。それと、私立の幼稚園や保育園も一緒に研修をやろうと考えている。このプログラムを進めるにあたっては、公立も私立も通うのは同じ磐田の子どもなので、協力し連携しながらやっていきたい。こうした部分については、これから新しく作っていく形になると思う。

市長 磐田市では幼稚園の園室の約87%にエアコンが設置してあり、幼稚園関係では県内でトップである。静岡県では、これまで幼・小・中の部屋にエアコンが無くても済んできたが、今年の夏のような猛暑では、全国で一斉に「エアコンがないと子どもたちが可哀想だ」という話になる。ところが高齢者の中には納得できない人も未だにいる。私たちの頃とは家庭環境も変わり、エアコンが当たり前の時代では、そういう理想論だけでは無理がある。話が逸れたが、私立であろうと公立であろうと保育園であろうと幼稚園であろうと、ほとんどが地元の小学校に進学するので、心配している方がいるなら、出来るだけ不安感のないように対応していきたい。磐田市の場合、保育園は私立のほうが多いが、それに対して心配の声があったかという、そんなことはない。民営化が全部良くて、全ての公立を民営化しようなどとは考えていないが、今の状況ではこども園化は避けられないと思う。その中で、磐田北幼稚園の建替えの際にこども園にしなかったのは、あの地域には近くに磐田北保育園があったから。いずれ施設が老朽化したときにどうするかも視野に入れて、とりあえず幼稚園としてスタートすることにした。配慮できる部分、尊重できる部分、対応が難しい部分、諸々あると思うが、これからも率直な意見を寄せてほしい。

教育長 民営化については、当事者になるといろいろ心配なことが出てくるのだと思う。私立には異動がないとか限られた空間になるという話が出たが、実際は私立にも異動はあるし、ローテーションを組んで一生懸命やっていただいている。また、小学校と連携を取るということを1つの条件としてお願いもしている。私立も含めて具体的にどのような連携の形を作っていけるかが、今後の磐田市の課題になると思っている。

市長 私立の園が新制度に基づく運営に移行すると公立と同額の保育料となり、私立の保育料との差額を市が補填することになるので財政面では大変である。その中で、どちらがプラスかマイナスかということだけでなく、良いところを捉えようとしても、結果的には戦力となる保育士の不足や施設の老朽化が問題となる。そうした中で、どういう方法が良いのか、学区のあり方や一体校の研究等を含め考えていく必要がある。

(2) その他（仮称）子ども若者総合相談センターについて

市長 平成31年度に、（仮称）子ども若者総合相談センターを立ち上げる予定である。最近では、社会人になってからの引きこもりが増えている。相談センターを立ち上げたからといって全てが解消するものではないが、家族の心が折れてしまったら終わりなので、そうした家族のフォローができる相談体制を作りたいと考えている。

教育長 今、私が問題に感じているのは、高校生になって脱落した子を私たちは見ていないこと。脱落して誰も手をつけていない子が実際に35人ぐらいはいる。学校教育から外に出た世界で、そういう子たちに手を差し伸べる、相談に乗ってあげる、その親御さんに「大丈夫ですか」と言ってあげられる、そういう人が近くにいる環境をつくる必要がある。まずは不登校の子をつくらないこと。原点となるのは、信頼感の形成期（5、6歳まで）で、不登校の種はそこで作られるということ。発達障害で脳が成育しないのも8歳ぐらまで原因が作られるのではないかという話もある。幼児教育にしっかりと取り組みながら、子

ども若者相談センターなどを活用して、今まで声が掛からなかったところに大人たちが少しでも声を掛けてあげるような活動ができればと考えている。

市長 「にこっと」では様々な相談に対応しているが、そこで全てが解消できるわけではない。ただし、専門職を配置しているので、データさえ持っていれば、ある程度の話はできるし、その中で引っかかったものを、内容によって関係機関に繋げるといった目利きの働きはできると思う。今、学校や教育現場では、世話が大変で先生の負担が増すということで、なかなか生き物を飼えなくなっているなか、今度「にこっと」でヤギを飼うことになった。ヤギを見て癒されたりほっこりしたり、ヤギに会いに施設に通ううちに気軽に相談ができるようになる、そんなきっかけになってほしい。今後は、「にこっと」に加え、子ども若者相談センターなどを活用して、少しずつフォローできる体制を整えたいと思う。

委員 仕事をするのが好きだという親を否定はしないが、親になることはすごく尊いことだと感じてほしいし、そういう思いをみんなに植え付けたい。しっかり育てる覚悟を持って産んでほしいし、産まれた子どもを愛してほしい。また、子どもと一緒にいる時間を大切にしてほしい。1時間でも、10分でも良いから、その子だけに愛情を注いであげるといって親を育てなければいけないと思う。

委員 母子手帳をもらう時などに、そういった親になるための教育はやらないのだろうか。

委員 母親学級というものがあるが、それは出産するにあたり、身体の変化に対する不安や出産することに対する恐怖心などの解消が目的である。

市長 先日、幼稚園・こども園のPTA会長の方々と懇談した際に、「子どもが自分自身で踏ん張るしかないときがある、自分で踏ん張らないとそのトンネルを潜れない時が来たときに、その踏ん張る力を協力しながら作らないといけない」という話をした。なぜそう思うかという、例えば、今、性病感染者が加速度的に増えていることを知っているかと聞いても誰も知らない。ところが、自分の人生だから好きにさせてという若者が増えている。親も世間体をあまり気にしなくなっている。私たちが若い頃は、30代で独身というだけで、あの家の息子はというような世間の目があった。こうなった部分の一番根底にあるのはお金だと思う。共稼ぎしなくても十分生活できるのに、何か脅迫感に追われて働いているように見えるし、保育園の入園にしても、今入っておかないといつ入れるか分からないからという考えに支配されているように感じる。

委員 祖父母と同居していても、保育園に入る要件を満たすために、その時だけ住所を移す人がいると聞いたことがある。実際には、同居してお迎えにも行ってもらっているのに、そういう実態があると聞いて非常に驚いた。

市長 合理的なのは良いが、このような自分の周りだけが良ければという考え方にも無理が来ている。こうした価値観は急に生まれたわけではないが、以前なら、そうは言っても我

慢しようという規範があった。最近はそれが緩んでいると感じる。今、教育委員会を中心に、「ひとと自分に一日一善」をスローガンとして取り組んでいる。小さなことでも良いから、みんながそんな意識を持ってほしいと思うし、そうした雰囲気は交流センターを中心に地域からも盛り上がってくれることを期待している。

委員 私たちは経済成長の中で育ち、毎年のように給料が上がるのが当たり前の時代だったが、今は先行きの不安や横のつながりの欠如などが大きく、最近の様々な問題はその辺りから来ているように思う。我が家では、今年、孫達が小学校と幼稚園に入ったので、嫁が仕事をやめたということがあったが、少しでも多くの時間を子どもたちのために使いたいという考えになってくれて嬉しかった。せめて子どもが小学校を卒業するぐらいまでは、多くの時間を親として関わってほしいと思っている。

市長 スタートアップの事業で、委員の皆さんがメッセージを1500枚書いても良いと言ってくれたことがきっかけで、それなら1500人に心を込めて1枚ずつ書いてもらうという形になった。字が上手い下手ではなく、心を込めて書き、その趣旨を丁寧に説明して渡すようにと伝えた。先日、磐田北高校の生徒が提案してくれたトイレトペーパーが完成したが、個室に入った時に、ふとその一行のメッセージを見てほっこりしてもらえたらという思いがある。あの包みは全部不揃いだが、それは障害者施設の子たちが一つひとつ手作業でやってくれているから。そういうことも伝えなければ分からないので、伝え方というのは本当に大事だと思う。市長になった頃、職員は断る理由を財政が厳しいからと言っていた。お金がないと言うのは楽だが、それでは相手は納得しない。こういう理由でということをしつかり伝えないといけないと指示した。それはこの民営化についてもそうだと思う。民営化も財政だけの問題ではないし、改善できるところは改善する用意があるので、納得するまで質問していただきたい。

委員 働くお母さんが増えているのも事実だし、こども園化や民営化も必要なことだと思う。それでも、全てが民営化なら納得できるが、「部分的に」だと該当する地域の方が納得できないのも理解できる。もし自分が当事者だったら、何か納得できる理由が欲しい。例えば、学府に1つは公立幼稚園を残すなど。分かりやすい理由や見通しのようなものを示し、学府内で公立と私立を選択できるようにすれば、説明しやすいし納得もしやすいと思う。

市長 今の意見は、私が職員に度々言っていることでもある。聞いている人が不満足でも納得できる物差しが必要。待機児童と施設の老朽化と保育士不足という問題が一気に来たことで、そこまでの計画を立てる余裕がなかったかもしれない。保育園と違って、幼稚園は経営が成り立たないから民営化が難しいという部分があり、そうした中で、信頼できる社会福祉法人が手を挙げてくれたことで、ここにならお願いしても良いかなという思いが何となくあったかもしれない。ただし、委員が言うように、きちんと納得できる物差しが必要だという意見はもっともであり、大いに反省しなければならない。

- 委員 | そういった場合には、ステップを踏むという考え方でもいいのか。
- 教育長 | 現在、第3計画まで進んでいて、ここからは実情に応じて具体的に作っていくことになる。先日、私立の幼稚園を視察しに行ったが、そこで新たに気づいたことがたくさんあった。やはり、現場を見て勉強することは必要だと思う。
- 委員 | 文科省の研修で山形に行った時に他市町の教育委員と一緒にになった。その市町では、公立の幼稚園がなく、全てが私立だということだったが、その幼稚園のことをとても高く評価していた。
- 市長 | こども園は、シフトの問題もあるし人事管理が大変である。加えて、全て正規職員にするのは不可能なので、臨時での雇用が増える。すると、議会では非正規の割合が多いと指摘される。しかし、これだけ多くの需要を賄おうとすれば、全てを公立で維持するのは不可能な状況であるということは理解してほしい。